

■橋本義夫 綴り方指導者。長い精神遍歴を経て、庶民が平明な文で自己表現する'ふだん記'運動に至った。

はしもとよしお
教科書疑獄・1902＝ 東京府下南多摩群川口村で、農業のほか養蚕・燃屋・土木請負などを兼業する旧家に生まれる。三多摩壮士の流れを汲み郡会議員にもなっていた父よりも、家業の復興に大車輪だったばかりでなく、村人の様々な問題に対処して尊敬された外向的で明るい母から、差別を許さない民衆教育を受けて育つ。

日露戦争終・1905＝ 3歳：

アヲヲ創刊・ 1908＝ 6歳：子供の悪口に激昂した隣村の被差別部落の青年たちが家に押しかけてきた時も、母の説得で引揚げる。

大逆事件判決1911＝ 9歳：
明治天皇没・1912＝10歳：

ロシア革命・1917＝15歳：この頃から吃音がひどく、殆ど人前で話せなくなり、内向的になって行く。

大暴落・・・・1920＝18歳：
原敬首相暗殺1921＝19歳：

関東大震災・1923＝21歳：朝鮮人虐待や有島武郎自殺などで厭世観が強まり、自殺を企て、宗教により辛くも回心する。
護憲三派圧勝1924＝22歳：八王子で開かれた賀川豊彦の講演を聞いて感激、読書を通じて内村鑑三の影響を受け、地方文化運動を起こすべく、村の青年らのため{教育の家}を始め、
円本時代始・1926＝24歳：下中弥三郎らの農民自治会運動に参画、南多摩郡に支部を組織。この頃には独自の文体も確立する。
金融恐慌・・・・1927＝25歳：小作争議よりも青年教育に情熱を燃やし、郷里に農村図書館設立を企てるなどするうち、
世界恐慌・・・・1929＝27歳：この年、結婚し、八王子に出、ペスタロッチの言葉からとった書店{揺籃社}を開き、岩波茂雄に傾倒して、三多摩の文化センターにして行く。また八王子の歯科医須田松兵衛と巡り会って生涯の親交が始まる。
満州事変・・・・1931＝29歳：誕生間もない長男が死去。優れた常民教育者平井鉄太郎と交わり傾倒する。

帝人疑獄事件1934＝32歳：次男が誕生。
芥川直木賞始1935＝33歳：世情悪化で厭世と絶望の感情が高まり、2度目の自殺の危機に陥ったが、たまたま読んだ三木清の「歴史哲学」中のライプニッツの言葉に開眼して脱し、以後独学で科学的思考を身につけて行く。
日中戦争始・1937＝35歳：東京から八王子に来訪した城戸幡太郎・留岡清男ら{教育科学研究会}一行を迎える。
健保+総動員 1938＝36歳：
第二次大戦始1939＝37歳：母が死去して、その健康な常民性の影響を大きく受けていたことに気づく。_{教育科学研究会}支部ができ、岩波{教育}に優れた報告論文「八王子における教育運動-薫心会の活動記録」を発表。
大政翼賛会・1940＝38歳：この地方を舞台に文化映画「村の学校図書館」が制作される。進歩的運動の焰を消さず、
日米開戦・・・・1941＝39歳：{教育科学研究会}が解散になると、偽装的名称の{多摩郷土研究会}を組織して人材育成を続け、{揺籃社}も三多摩一となっていたが、
創価学会検挙1943＝41歳：早期終戦を願って、東条首相直訴計画を立てたり、抵抗の言葉を店頭に掲示したりしたため、
年金+総武装 1944＝42歳：特高警察に踏込まれ、治安維持法違反で逮捕され、
敗戦・・・・1945＝43歳：過酷な留置場生活を送るうち、空襲延焼の怖れで釈放され八王子に戻るも空襲で全滅、全てを失った。茫然とするうち敗戦、直後に教え子の訪問を受けて感動、自らも平井鉄太郎を訪ね、その泰然自若ぶりに感銘。いち早く青年教育運動を再開するも無残な結果となり、
新憲法公布・1946＝44歳：須田が死去。松井翠太郎が{多摩青年文化協会}を結成し、錚々たる講師を招いて“多摩自由大学”を開催。
新憲法施行・1947＝45歳：将来の展望が開けず、3度目で深刻な自殺の危機に陥る。“民衆の天才”発掘と応用の研究を始め、
三大事件・・・・1949＝47歳：メイラン神父が死去、
朝鮮戦争始・1950＝48歳：太田秀穂が死去、
独立回復・・・・1951＝49歳：平井鉄太郎が死去と、敬愛してきた“民衆の天才”を次々失って、ますます研究にのめり込むうち、朝鮮特需で時代が急変、自分にできる身近なところからの実践するしかないと決意して、危機から脱出。
メー-事件・ 1952＝50歳：独力で「古代中世地方史研究法」を考案。建碑運動を始め、品種改良家河井宗兵衛讃える“麦の碑”を建て、
TV放送始・ 1953＝51歳：「困民党七十年祭」を実現。陸稲品種“平山”考案者林常太郎を称えて“おかぼ碑”を建てる。
自衛隊発足・1954＝52歳：「困民党首領塩野倉之助碑」「平井鉄太郎碑」「磯間良輔碑」。深い感謝を込めて、母の思い出「村の母」を著す。「多摩丘陵開発協会・事業一覧」を著し、ユートピアの実現を構想。

国連加盟・・・・1956＝54歳：
なべ底不況・1957＝55歳：「近代先賢の碑」「絹の道碑」、戦時下強制送還となってインド洋上で死んだ“コックス碑”など実現させ、建碑運動がほぼ終了するも、赤貧洗うが如くなる。「天才」を発表、全く世に知られなかった。この間、自らの体験から、庶民の自己表現のため、平凡人が平明な文章を書く方法に思い至り、
インスタントメン・1958＝56歳：*ひらがなのみの{ふだんぎの会}趣意書を発表、自ら模範となる文を次々示して、多くの人に勧め始める。地方史家の助けを借りて「メイラン神父」第三集を出版。“御母讃の碑”を建て、ポイコットや迫害に泣く。
美智子妃・・・・1959＝57歳：この年、鈴木竜二を主幹に多摩文化研究会が発足し雑誌{多摩文化}を発刊されると、積極的に協力、
安保闘争・・・・1960＝58歳：経験則を「平凡人の文章」をまとめ、配布して歩くも反響が得られず、
全国総合計画1962＝60歳：破壊され尽くされた多摩丘陵に悲痛な挽歌を残し、以後しばらく沈黙。_この間、実験に加わってくれた中堅婦人とともに、平凡人の文章を試行錯誤、
TV宇宙中継始1963＝61歳：戦後の八王子地方文化の昂揚に画期をなした鈴木竜二が急逝。
東京リビック 1964＝62歳：「平井鉄太郎先生伝」、
大学紛争始・1965＝63歳：「多摩婦人文集-十周年記念」にまとめると、
美濃部都知事1967＝64歳：「みんなの文章」に理論化、人生最後の成否を賭けて、“ふだん記”運動を開始、{ふだんぎ}を創刊、四宮さつき・郵便局長大野夫妻の献身的働きで、苦難の時代を乗り越り、
震ヶ関ビル・ 1968＝66歳：*「ふだん記について」を発表。朝日新聞全国版のコラムに{ふだんぎ}の専職人の書いたものが取り上げられるや、全国から問い合わせが殺到、身についた文章力で手分けして速射砲のように返事、たちまち全国ネットワークが形成され、会員間の連絡のための{ふだん記通信}も発行、“ふだん記全国グループ”となる。

石油ショック1973＝71歳：
角柴金脈辞任1974＝72歳：*自ら司会役をつとめ殆ど全員が離した第6回“ふだん記全国グループ”の集いのことが朝日新聞読書欄に詳しく報道されるや、再び全国から問い合わせが殺到、三ヶ月たってもなお止まない状況のなか、没した。